

魚沼市人口ビジョン【概要版】

人口の現状分析

■人口減少・高齢化が進展

- 1955年（昭和30）の61,219人をピークとして減少傾向を続けており、2010年（平成22）は40,360人となっている。
- 特に1990年（平成2）以降の減少が顕著。
- 自然動態は1999年（平成11）以降マイナス傾向に転じ、近年は200～300人のマイナス。
- 国よりも高齢化率が進展しており、2010年（平成22）では国では23.0%に対して魚沼市は29.7%となっている。
- 合計特殊出生率は国の値を上回っており、国の1.43に対して魚沼市は1.59となっている。（平成25）
- 社会動態は、減少傾向を続けており、主要因は若年層の流出であり、転出理由は「職業」と「学業」となっている。
- 両動態が同時進行で減少することにより加速度的に人口が減少。

将来の人口の変化

■人口減少・高齢化がさらに進展

- 国立社会保障・人口問題研究所の推計では、将来の人口は大きく減少するとされている。

	2025年 (平成 37)	2040年 (平成 52)	2060年 (平成 72)
総人口	32,700人	25,600人	17,100人
高齢化率	40.3%	43.8%	44.3%
対2010比	80.8%	63.3%	42.3%

- 2010年（平成22）と比較すると2025年で2割減、2040年で4割減、2060年では6割減となり、このまま推移すると地域社会・経済の活力が失われ、市としての機能を維持していくことが困難になる。

目指すべき将来の方向性

■自然減と社会減を抑制

- 日本社会全体の大きな流れの中で、市が将来的に人口減少・超高齢化を迎えることは避けられない。
- しかし、この流れに拍車をかける出生率の低下や人口流出を改善するための人口減少対策を進めることが重要。
- 小さくても持続可能で元気なまちを目指すことも重要。

①安心して結婚し、こども産み育てられるまちを目指す

⇒加速度的に進行する自然減を抑制するため、合計特殊出生率を国の目標水準を上回る水準まで高める

②魚沼で仕事をし、暮らし続けられるまちを目指す

⇒若年層の社会減を抑制するため、雇用の場の創出や暮らしやすい環境整備を行うとともに、UIターン促進による社会増を目指す

③人口減少・超高齢化社会に適応したまちを目指す

⇒魚沼らしく持続可能で元気なまちづくりを進めるため、新たな社会構造の構築や都市のコンパクト化などを推進する

人口の将来展望

■人口の将来展望

- 将来の目指すべき方向性を踏まえ、2060年（平成72）に人口規模約26,000人を目指す。

◇人口予測結果

	2025年（平成37）	2040年（平成52）	2060年（平成72）
総人口	35,500人	31,300人	26,000人
高齢化率	39.4%	40.9%	36.9%
対2010比	88.0%	77.6%	64.4%

- ★合計特殊出生率の設定・・・方向性①により2030年に1.8人、2040年に2.1人、2050年に2.3人を達成する
- ★人口流出軽減の設定・・・方向性②により社会減が改善され、0～59歳までのマイナス純移動率が50%緩和される

- 上記の自然増や社会増を目指すためには、方向性①や②を推し進める積極的な“積極戦略”が必要。

- 人口減少・超高齢化社会に適応し、持続可能で元気なまちを目指すためには、方向性③を推し進める“調整戦略”が必要。

- この“積極戦略”と“調整戦略”は、中・長期的な取り組みが必要。

魚沼市 将来推計人口

